

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

全問題が解答の導出過程を示す問題で構成されている。

グラフを描かせる問題が出題された。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	問形式 (記述・描図)	力学 (衝突・単振動)	物理	球面内の運動は単振り子と同じ単振動とみなせることに注意する。衝突はつねに原点で起こることに気付くこと。	やや難
II	問形式 (記述・描図)	電磁気 (コンデンサー含む 直流回路・電気振動)	物理	問2では電気量保存則を用いて先に V_0' を求めると計算量が少なくなる。	標準
III	問形式 (記述)	熱 (気体の状態変化)	物理	定積変化, 定圧変化, 気体の混合の問題であった。気体の状態方程式と熱力学第1法則を適切に用いられよう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書を中心に基本事項を正しく理解しておくこと。また簡潔で正確な文章により、物理現象や法則を説明できるように日頃から練習しておくこと。